



令和4年7月13日
海上保安庁

夏季の海の安全推進活動の強化について
(夏季安全推進活動期間：7月16日から8月31日まで)

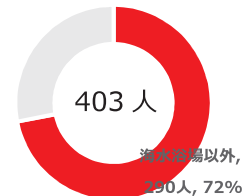
例年、夏季はマリンレジャーに伴う事故が多発します。このため、海上保安庁では、7月16日(土)～8月31日(水)を「夏季安全推進活動期間」と設定し、全国で海難防止活動を強化、海の安全推進活動を実施してまいります。

近年の夏季における事故発生状況から、以下について重点的に安全推進活動及び自己救命策の確保の推進を実施します。

1 マリンレジャーに伴う海浜事故

(1) 遊泳中の事故

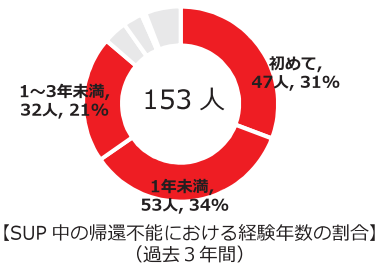
- ①監視員やライフセーバーが配置され、安全管理が行き届いた海水浴場での遊泳の啓発
- ②飲酒後の遊泳の危険性に関する啓発



【遊泳中の発生場所別事故者数の割合】
(過去3年間)

(2) SUP中の事故

- ①経験年数3年未満の者を対象とした安全啓発
- ②初心者に対するスクール等の受講の推奨

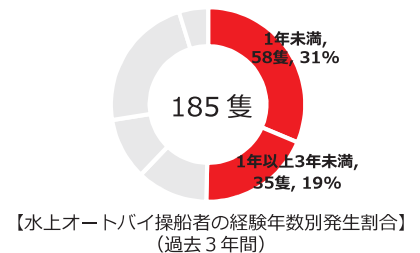


【SUP中の帰還不能における経験年数の割合】
(過去3年間)

2 プレジャーボートの事故

(1) 水上オートバイの事故防止

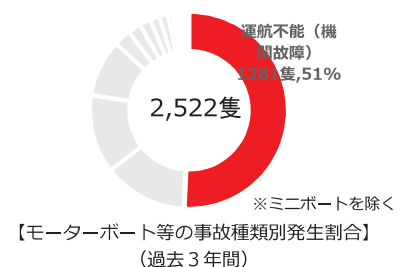
- ①訪船指導やウォーターセーフティガイドを活用した啓発
- ②法に定める発航前検査の実施、遵守事項の指導及び違反認知時における適切な対応（是正指導等）の実施



【水上オートバイ操船者の経験年数別発生割合】
(過去3年間)

(2) モーターボート及びクルーザーヨットの事故防止

- ①訪船指導等の機会やSNS、動画等を活用した定期的な整備事業者等による点検整備の推奨
- ②法に定める発航前検査の実施、遵守事項の指導及び違反認知時における適切な対応（是正指導等）の実施



【モーターボート等の事故種類別発生割合】
(過去3年間)

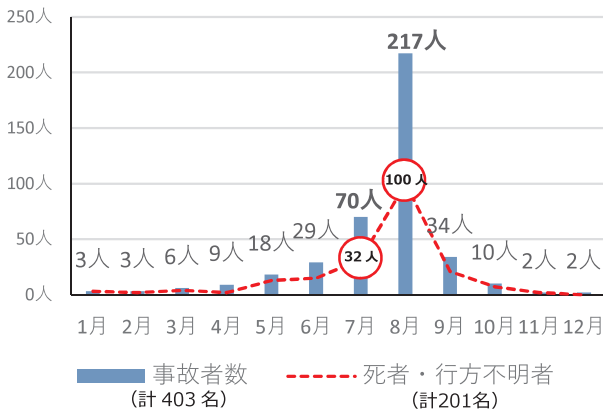
※記載のあるものを除き、令和元年から令和3年の事故に関するもの。

1 夏季における事故発生時等の状況

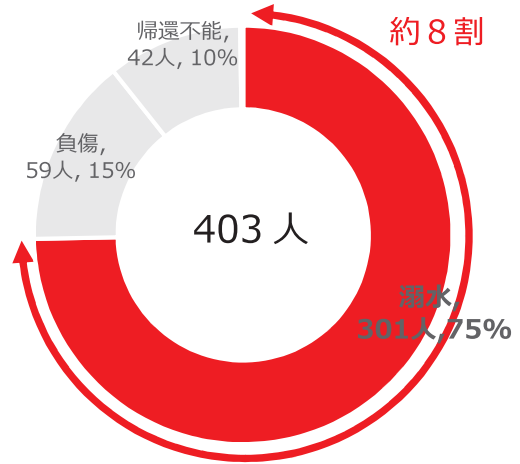
(1) マリンレジャーに伴う海浜事故

① 遊泳中の事故

【事故の月別発生人数（過去3年間）】



【事故内容別発生状況（過去3年間）】

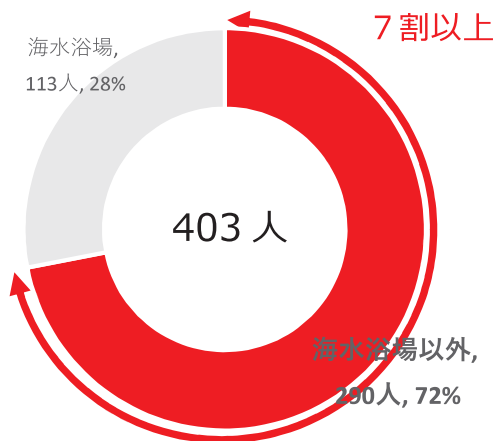


○遊泳中の事故は、7月、8月に事故者数が最も多くなる。

○遊泳中の事故者数は403人で、このうち死者・行方不明者数は201人。

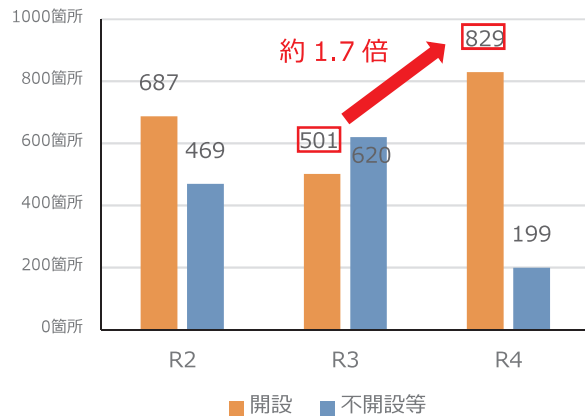
○遊泳中の事故内容としては、溺水が約8割を占める。

【発生場所別事故者数の割合（過去3年間）】



○遊泳中の事故発生場所別では、7割以上が海水浴場以外で発生している。

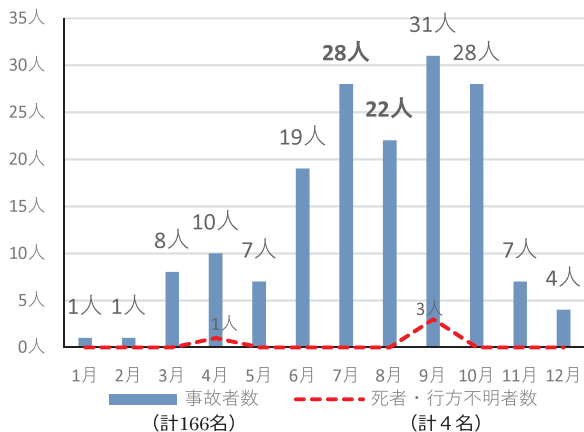
【海水浴場開設状況（直近3年間）】（令和4年6月30日現在）



○令和4年は、令和3年に比べて約1.7倍の海水浴場が開設されている。

② SUP中の事故

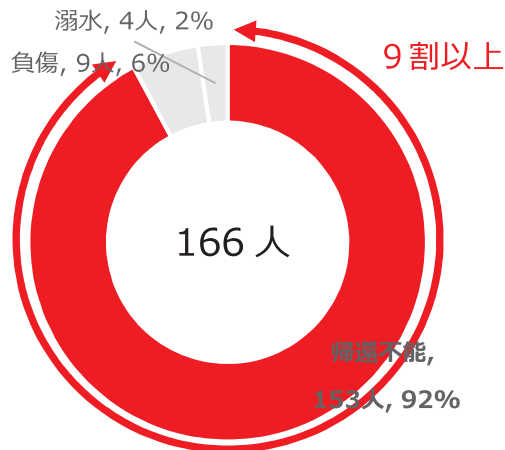
【事故の月別発生人数（過去3年間）】



○SUP中の事故は、夏季に向け増加し秋季にわたり高止まり。

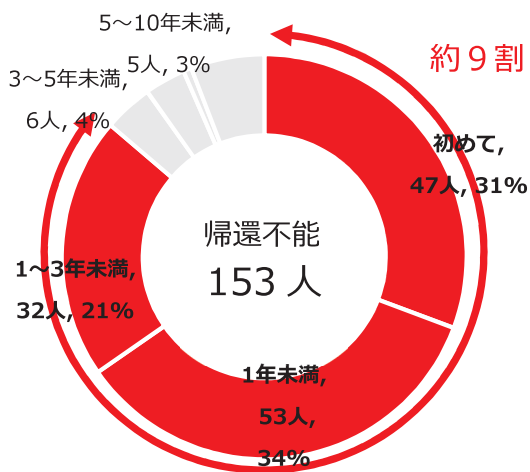
○SUP中の事故者数は166人で、このうち死者・行方不明者数は4人。

【内容別発生状況（過去3年間）】



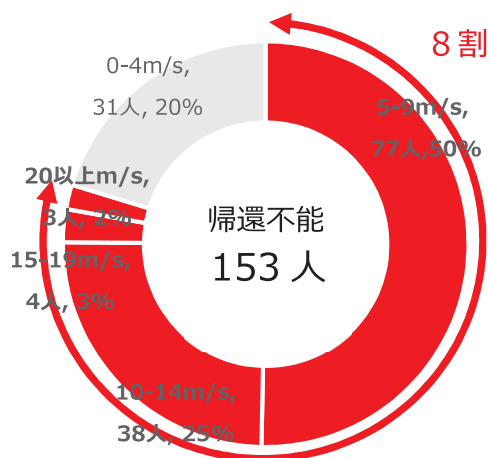
○SUP中の事故内容としては、帰還不能が9割以上を占める。

【帰還不能における経験年数の割合（過去3年間）】



○帰還不能事故発生時における経験年数別では、3年未満の者による事故が約9割を占める。

【帰還不能における風速別割合（過去3年間）】

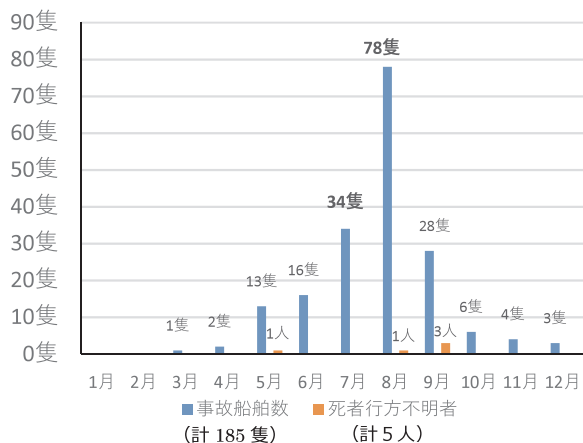


○帰還不能事故発生時における風速別では、5m/s以上での発生が8割を占める。

(2) プレジャーボートの事故

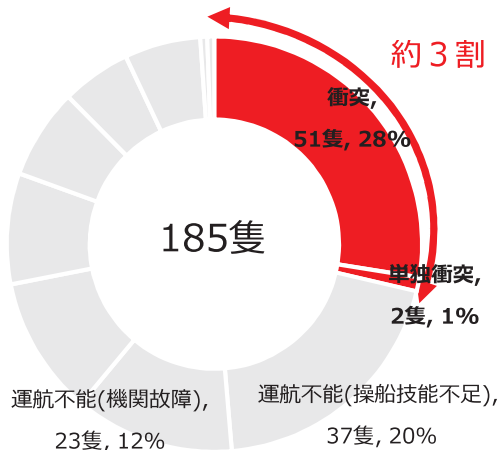
① 水上オートバイの事故

【事故の月別発生隻数（過去3年間）】



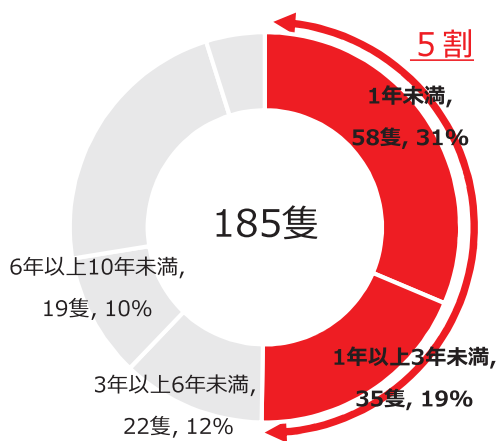
- 水上オートバイの事故は、8月に最も多く発生している。
- 水上オートバイの事故隻数は185隻で、このうち死者・行方不明者数は5人。

【事故種類別の割合（過去3年間）】



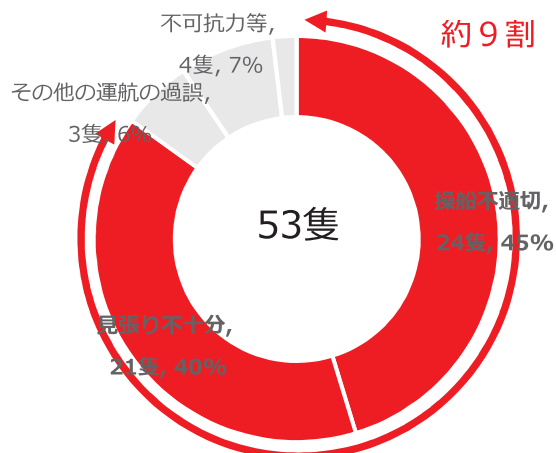
- 事故種類別では衝突が最も多く、約3割を占める。

【操船者の経験年数別発生割合（過去3年間）】



- 操船者の経験年数別では、3年未満の者による事故が5割を占める。

【衝突の原因別発生割合（過去3年間）】

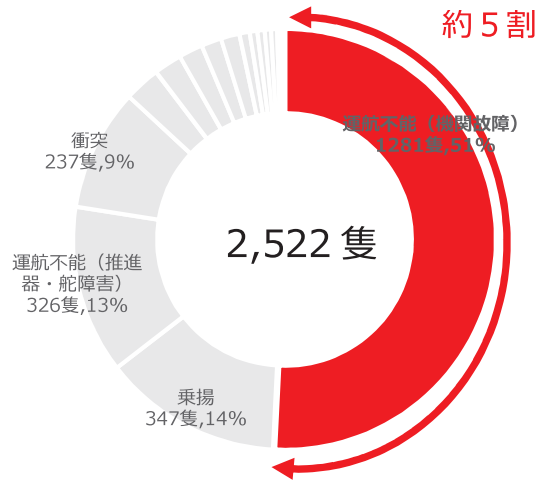
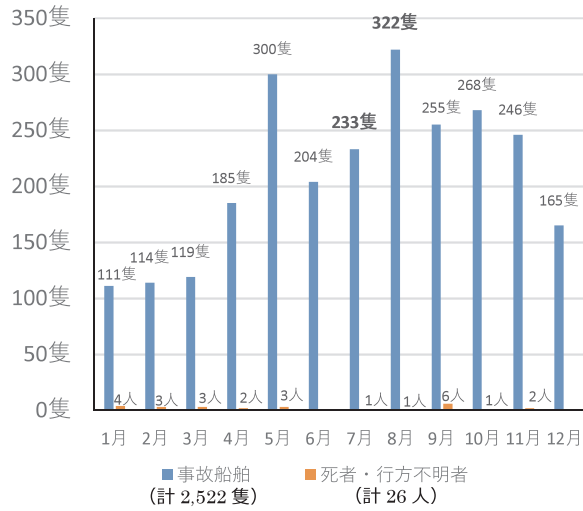


- 衝突の原因別では、操船不適切、見張り不十分が約9割を占める。

② モーターボート及びクルーザーヨットの事故

【事故の月別発生隻数（過去3年間）】

【事故種類別の割合（過去3年間）】



○モーターボート及びクルーザーヨットの事故は、8月に最も多く発生している。

○モーターボート及びクルーザーヨットの事故隻数は2,522隻であり、このうち死者・行方不明者数は26人。

○事故種類別では、運航不能（機関故障）が約5割を占める。

2 自己救命策の確保の推進

思わぬ事故から命を守るために重要な「自己救命策3つの基本」について周知啓発を実施します。

- ライフジャケットの常時着用
- 防水パック入り携帯電話等の連絡手段の確保
- 118番・NET118の活用

また、家族や友人・関係者に目的地や帰宅時間を伝えておくことも、有効な自己救命策の一つです。

3 安全情報の提供

(1) ウォーターセーフティガイド

総合安全情報サイト「ウォーターセーフティガイド」では、遊泳や水上オートバイなどの6種類のマリンレジャーについて、事故防止に必要な安全情報を分かりやすく掲載しています。



(2) 海の安全情報

気象庁が発表する気象警報・注意報、全国各地の気象海象の現況、海上模様が把握できるライブカメラ映像等の安全に関する情報を提供しています。

A screenshot of the '海の安全情報' (Marine Safety Information) website interface. At the top, there is a search bar with the text '海の安全情報' and a '検索' button. Below the search bar are four main sections: 'パソコン用サイト' (PC Site), 'スマートフォン用サイト' (Smartphone Site), '携帯電話用サイト' (Mobile Phone Site), and '緊急情報配信サービス' (Emergency Information Distribution Service). Each section shows a preview of its respective content, including a QR code and a URL. The '緊急情報配信サービス' section shows a notification about a typhoon warning.